

■2021年3月8日 神戸市会 令和3年度 予算特別委員会 経済観光局審査

1. 六甲山上スマートシティ構想について

六甲山は、イギリス人貿易商、グルームが1895年に初めて別荘を建て、1910年には外国人や日本人の住宅が60以上建てられ、その後90年代始めまでに企業の保養所や別荘が229社建てられました。しかし、この20年で企業の保養所は、その70%が閉鎖され、手入れをされず朽ちていっている廃屋もあります。今再び、六甲山の開発が、行政と市民、民間活力が一緒になって進められることを期待していますが、

六甲山上スマートシティ構想の実現に向けて、昨年12月には基本的なインフラである光回線によるブロードバンドサービスが開始され、市街地と同様の通信環境が整備されました。また企業が所有する山上の遊休施設を活用したオフィス改修も、順次進められていると聞いています。

構想にある、企業やクリエイターが集積する「自然調和型オフィス」と、企業やクリエイター、住民のコラボレーションが生まれる「創造を生むつながり」づくりを進めていくとのことですが

六甲山上のオフィスについて、企業からの引き合いがあると思いますが、どのような方が関心を持ち、どのような相談があるのか伺います。

2. 近場観光の推進について

コロナ禍において観光需要が大幅に落ち込む中、様々な観光喚起策が検討されてきましたが、新型コロナウイルスの再度の感染拡大により国のGOTOトラベルも本市のプレミアム付き宿泊クーポン事業も、今は一時停止となっています。WITH コロナ、POST コロナを見据えて、感染拡大防止と経済活動の両立の観点から市内の観光資源を活用した近場観光を推進していく必要があります。

令和3年度予算では、宿泊リピーター獲得に向けた新たな取り組みが予定されていますが、国のGOTOトラベルやプレミアム付き宿泊クーポン事業とあわせて、その取り組みをどのように進め、近場観光を推進するかを伺います。

3. エシカル消費の普及啓発について

第4次神戸市消費者基本計画において、最優先取組み課題の一つとして、持続可能な社会の推進に向けて「エシカル消費」の普及啓発を図っていくということでもあります。

エシカル消費という言葉は馴染みが薄く、またその行動を促進するための「国際フェアトレード認証ラベル」等の取組みについても、ほとんど認識されていないのが現状です。

販売されている商品について「どこで生産されたか」「どのような労働力で作られたか」等、消費者である市民がよく考えて、人や社会・環境に配慮した商品を選択できるように普及啓発を進めていかなければならないと思います。

貧困や人権問題、気候変動といった問題が世界中で「喫緊の課題」となっています。これらは主として、先進国による大量生産、大量消費に端を発する問題です。先進国に暮らす人々の欲望を満たすために、途上国の社会的に立場の弱い生産者が搾取されたり、地球の再生能力よりもはるかに早く資源を使い、環境が破壊されたりしているのが現実です。

「エシカル消費」は日本語にすると倫理的消費となり、SDGsの12番目の目標である「つくる責任・つかう責任」に関連する取組みであり、エシカル消費を実行に移すことは、少なくともこの半分を果たすことでもあります。また、目標1（貧困をなくそう）や目標10（人や国の不平等をなくそう）、目標13（気候変動に具体的な対策を）、目標14（海の豊かさを守ろう）、目標15（陸の豊かさも守ろう）といった目標をも同時にカバーできるのが、エシカル消費です。

第4次神戸市消費者基本計画に基づく取組みの中、様々な年齢層に対してエシカル消費に関する普及啓発をどのように進めていこうとしているのか伺います。

4. 「灘の酒」のPRについて

六甲山系の水などを生かした灘五郷は全国有数の清酒生産地であり、歴史ある「灘の酒」は神戸市が誇る貴重な地場産品であり、観光資源でもある。

近年、海外において日本酒への関心が高まる一方、国内では若者のアルコール離れ等により需要は減少傾向にあり、新型コロナウイルス感染症による影響もふまえながら「灘の酒」の国内外での認知度向上および販路開拓については業界団体と一緒に、さらなる検討

を進めていく必要があると考えています。

令和2年6月には、「灘の酒」を含むストーリーが日本遺産に認定されましたが、市として、どのような思いで認定に向けて取り組みを進めてきたのか、まずは伺いたい。

5. 最後に消費者トラブルへの対策について

本市においては、水まわりトラブルに関する相談件数が多く、被害額も高額化している。悪質事業者への対応を関係機関と連携して進めるとともに、水道局等の関係局と連携した未然防止の啓発が重要であります。

第4次神戸市消費者基本計画において、水まわりトラブルへの対応が最優先取り組み課題の一つに挙げられています。その相談件数等が近年、どのような状況にあるのか、またその対策について具体的にどのように進めていこうとしているのか伺います。